

な か ま

発行

佐倉市立中央公民館
な か ま 編 集 係

〒285-0025

佐倉市 錦木町 198-3

電話 (043) 485-1801

2 ページ	佐倉の水	細野栄次	佐倉の小路	三好幸四郎
3 ページ	徒然草を学ぶ	瀬田貴久子	デンデンちゃんとの出逢い	平川興治

夢のあとで

永見一

梅雨のわずかな晴れ間を狙って、女性を含む気の合った仲間と、清澄山頂附近の散策と麻綿原高原の紫陽花を見に出かけた。

久しぶりに乗る外房線の車内は、平日のせいやすいていた。鴨川の一つ手前の小さな駅、安房天津まで一時間余り、先ずは乾いた喉を潤す缶ビールを飲む。車窓から見る風景は二十数年前とは見違えるほどに市街地化され、のんびりとした昔日の面影はない。

昨夜といっても今朝といったほうが正確かもしれないが、TVのボクシング中継を見ていつものように亢奮して明け方までまどろんでいた。心地よい酔いと車体の振動で浅い眠りについってしまった。

たまには浮世の垢を落とそうと悪童連でいつもながらの極めて凡庸な温泉旅行が企画

された。板につかない丹前を着込んで、その下からズボン下などをのぞかせた連中が膳に控えると、仲居たちが酒、ビールを運んでくる。続いて待ち構えたように土地の芸妓が三人に一人ぐらいの振り合いで席を占める。

床の間を背にした長老などの大人組の前にはこういう場合、だいたいお婆ちゃん芸者が座るものようである。三月まえまではOLをしていたという若い芸者は末席の青年組から動かない。

温泉の芸者に、格づけもおかしなものだが、元は東京のなにかの花街から出ていた果ての芸者、歴数十年などというのがある以上、多少の格づけができるのも止むを得まい。もつとも若い妓より婆ちゃん芸者はそれだけのお飾りを潜ってきただけのことはある。一通り

の音曲が弾けるので少々三味線の音ははずしても酔っぱらい相手では気にならない。

誰かが隣りの芸妓に名前を聞いたら、「銀奴よ、よろしく」どこかで聞いた名だなど思った。黄門さんに出ているお銀さんとのあまりの違いに思わず吹きだしてしまった。だがこの世界にもルールがあり、年長、先輩に対してのそれなりの礼儀があり、ややもすると最低の礼節をもわきまえない輩が近ごろ多すぎる。

車内放送の声に微睡みから覚めた視線の先に、いつの宴席にも途中から銀奴姐さんに変身してくれるK女史がたのしそうに、お喋りしている姿がとび込んできた。

隣りの席に若いママに抱かれた幼い女の子と、別れのバイバイをした時、愛らしい投げキッスを返してくれた……。

久しぶりに全身の血が騒いだ、今夜は旨い酒が飲めるぞ。

(編集委員)

佐倉の水

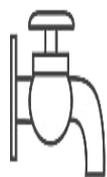
臼井公民館の「ちよつといとこ見て歩き」に参加する。今回は、「大人も社会科見学」がテーマ。市内の工場や施設を四日間にわたって見て歩き、知っていそうで知らない、そんな佐倉を勉強した。

十七万市民の生活用水を賄う浄水場。佐倉にはその浄水場が志津、上座、南部(小篠塚)の三か所があり、そのまわりに合計三十三本の深井戸が掘られている。三つの浄水場の合計給水量は一日約五万立方メートルだが、このうち深井戸から汲み上げての浄水はその三分の二。これに利根川水系柏井浄水場からの購入水をブレンドして給水している。

方は……と案内の職員さん。すべてがオートメ化されており、少ない人員で厳重な管理体制が施されている。

「どんな味がしますか？」とすすめられて深井戸水を試飲する。まるでやかで自然の味というべきだろうか。ふとあの時のあの水の味を思い出した。四十年前、この地を住処と決めたその時の、夏は冷たく冬温かな水道水の味だった。蛇口からほとばしる水。台所、風呂、洗面、トイレ、そして洗車、庭の花壇にと、各家庭はもちろん、学校、工場で豊富に使われている水。帰りに際に貰ったペットボトル、佐倉市水道事業五十周年記念と印された『おいしい佐倉の水』を味わいながら、改めて健康な社会生活に欠かせない水。そのありがたさと資源の大切さを痛感させられた。

(臼井 細野栄次)



佐倉の小路

道、路、途、みち、自動車の通る道路、人の擦れ違う小路、人生の途上、みちには様々な姿がある。先日NHKのテレビ番組「小さな旅」で、富山県南砺市城端の小路を紹介していた。人、一人通れる道幅の路地、曲りくねって家々の軒下を通る迷路の様な小路、これが本来の路ではないかと感じた。

人が行き交う時、互いに一瞬立ち止って身を斜めにして会釈をかわし擦れ違う、そこにコミュニケーションが生まれ、濃密なコミュニケーションが創られて来たのではないかと気付いたと思います。

市民カレッジの「私たちのまちづくり」学習の中で「街の隠れた危険マップ」作りとその解決のために「ストーリー14」のグループ名で、仲間たちと市中を歩いています。佐倉の小路、人の道をカラー

ロードにし、親しみやすい名前を付けて整備したら、いかがでしょうか。

歴史と文化、芸術の街、健康増進と観光の街づくりの一助になればと思います。

私たちは道というと自動車が行き、その利便性に適応した道路づくりを考えてしまう。道路の反対側に渡るのに、一週間かかったという落語の「ネタ」のような話が随所に見受けられる。

美空ひばりは「地図さえないそれもまた人生……」と唄った。今も多くの人々に歌われている。「通じゃんせ通じゃんせ、ここはどここの細道じゃ……」わらべ歌が聞えてくるような道端に腰を下して、道、路、途、みちについて一考してみたいかがでしょうか。あなたは、どんな途を歩むのですか。

(井野 三好幸四郎)



徒然草を学ぶ

月一回 徒然草を学んで二年ばかり。徒然草を語ることはできないので 徒然草にある説話から 私の思いを書きます。

人の心を惑わすのは色恋。仙人が 女の脛を見て 念力を失い 空から落ちた。

字が下手でも 代筆させず、自分で書く方が良い。名誉や、利益に惑うのは愚かである。

若い人が 若人に交って ぶざけるのは、情ない。

良い友とは 物をくれる人。医師。知恵のある人。

寺の法師が 興に乗りすぎ かぶったカナエが とれなくなつた。等々。

わずかな例をあげましたが 徒然草の四分の一が説話です。吉田兼好は 章段の後に 的確な寸評を加えて 愚行談、奇談に終らせず 読む人に

一考を促したように思います。

徒然草を含め 今に伝わる説話は 数多くあります。

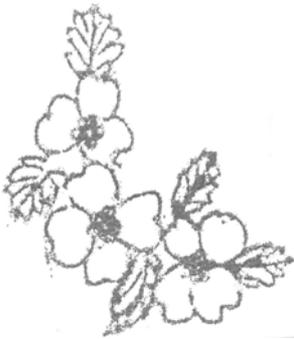
それらは、私の遠い祖先が 実体験したであろうことが、 今私の心に蘇つて来て 追体験しているのを 感じます。

兼好は 自らの仏教信仰、 生き方を基に 日常の些事から 人間性や人間模様を見ようとしたのでしょうか。

昔も今も 人の心の有り様、 世事は、余り変りなく 人の 営みが続く限り ずっと繰り返されるのでしょうか。

徒然草を読み、説話を讀んで こんなふう思う、今日このごろです。

(王子台 瀬田貴久子)



デンデンちゃんとの出逢い

一昨年のリタイア後、狭い庭ですが空いたスペースを耕しての家庭菜園や花壇を楽しんでいます。

毎年、梅雨の季節になるとカタツムリが出てきては野菜・花を荒らすもので見つけるとは駆除していました。昨年の六月頃四歳の孫が遊びに我が家に来た折のことです。庭でカタツムリを見つけ、手の平に乗せては宝物のようにみつめているのです。早速、虫籠を持ってくるとその中に入れて「角をだすかな？」と観察をしていました。

「孫が喜ぶのなら」その日から庭でカタツムリ探しが日課となり、最大十二匹の大所帯となったのですが、そのうち一匹は籠の隙間から家出、また秋から冬になり冷えこみが厳しかった朝、かわいそうにも一匹が亡くなってしまいました。その日から植物用の温室に籠を入れて寒さ対策を施

しています。

食べ物は野菜類が好物のようで、桃・りんご・梨等の果物には手を付けません(手があつたかな?)。野菜の中で特にキュウリは大好物、適当な厚さに切つて渡すと翌朝には皮だけを残して実の部分は全部なくなりリング状。人参・大根・小松菜・キャベツ等々よく食べてくれます。

住処の掃除は三日に一回、皆を外に出して籠ごと丸洗い、排泄物の掃除にも慣れ、よく観察すると毎日食べた野菜の種類によつて赤・白・緑と色が異なっています。出会つた時は二ミリほどだった一番小さなデンちゃんも今では五ミリを超えるほどに大きく成長しました。

孫のひとつの仕草から始まつたデンちゃん相手の楽しみ、小さな虫にも生命があり懸命に生活をしていることを、改めて幼い孫に教えられたオジイちゃんです。

(井野 平川興治)

7月の黒板

『なかま』原稿募集のお知らせ

『なかま』の2・3面は、市内の皆様の投稿によって作られています。原稿は随時募集しています。

[原稿規定] 字数 650字(13字×50行)以内。ワープロによる原稿(縦書き)でも結構です。

内容 随筆・・・日常の出来事、生活の中で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などご自由にお書きください。

『なかま』に対するご意見・ご感想などもお待ちしております。

いただいた原稿は、掲載するにあたり常用漢字への変更や、句読点等修正させていただきますことがあります。

問い合わせ 佐倉市立中央公民館 (第2・第4月曜日は休館日です)

電話 485-1801

URL <http://www.city.sakura.lg.jp/kominkan/cyuuou/index.htm>

わくわく道

敬語は、尊敬語、謙譲語、丁寧語に三分類されますが、謙譲語を謙譲語 と謙譲語 (丁寧語) に、丁寧語を丁寧語と美化語に細分して尊敬語を含めて五分類する「敬語の指針」が、文化審議会から文部科学相に答申されたとの新聞報道が今年二月にありました。

相手の人物を立てて述べる

のが謙譲語、相手に対して丁寧(丁寧)に述べるのが謙譲語(丁寧語)、丁寧(丁寧)に述べるのが丁寧語、ものごとを美化して述べるのが美化語ですが、語例によると、何うが謙譲語、参るが謙譲語(丁寧語)、です。ますが丁寧語、お酒・お料理が美化語とされています。今後、中央教育審議会でも検討して貰うとのことですが、「美化語」は敬語になるのでしようか。

あがとき



七月に入り、夏も本番。外へ出るとキラキラと照りつける暑い日ざしが待っています。細野さん、三好さん、瀬田さん、平川さんご投稿ありがとうございました。とうございました。

私も佐倉へ越して来た四十年前、水の美味さに感激した一人です。佐倉の小路も幼い子供と二人で、あちこちと探検して歩きまわったものです。

兼好法師は夏の暑さが大嫌いだっただけか。何かで読んだ記憶があります。

作者の意図することとは、かなりかけ離れてしまいました。たが、私の中で時間が逆行したような、そんな思いで楽しく読ませていただきました。

「デンちゃん」はその好々爺ぶりが目に浮かぶようです。私も好々婆(?) になれたらと思っています。

これからも『なかま』の応援、よろしく願います。

(長田)